

## しんほう抄

社会人野球日本選手権大会で、マツゲン箕島硬式野球部が優勝候補のトヨタ自動車と互角に渡り合った。原動力は先発した和田拓也投手。緩急や多彩な変化球を武器に4回以降は相手打線に二塁すら踏ませない快投を見せ、西川忠宏監督は「120〜130点の投球だった」とたたえた。

◇ 和田投手は横手気味のフォームからスライダー、チェンジアップなどの変化球を投げ分ける。特にスライダーは種類が多く、試合後の取材では「自分では10種類くらい持っていると思う」と話し、「いくつも投げ分けたのがハマってくれた」と振り返った。この日の捕手は同期入社の中原良照選手。西川監督は「捕手を普段と変えて目先を変えたのがハマったのではないかと振り返った。」

◇ 日本選手権大会は6回目の出場。2点差で明治安田生命に敗れた2017年に続き企業チームと互角に勝負できることを示した。トヨタ自動車の藤原航平監督も「マツゲン箕島さんはしっかりとした野球をされていて、クラブ選手権も圧倒的な強さで勝っている。こういう展開は予想していた」と実力を認めた。来年こそ悲願の初勝利に期待したい。(俊)